

我が詩篇

川上澄生



我が詩篇

川上澄生



龍星閣



川上澄生繪入著書

〔龍星閣版〕

ゑげれすいろは人物 三五〇円

ランブ 三五〇円

絵入新約列子（絵） 三五〇円

少々昔噺 四五〇円

我が詩篇 三五〇円

昭和三十一年十一月十日 印刷
昭和三十一年十一月二十日 発行

特瀧和紙刷本 定價參百五十圓

著者 川上澄生

刊者 澤田伊四郎

熱海市水口区牡丹臺

發行所 龍星閣

熱海市水口区牡丹臺
振替口座東京五〇六五
東京連絡所 電話九段（33）九二七二

目次

序へ我は▽	四
横濱どんたくへ繪八點▽	五—三
寂寥地方	二二
膽振國白老村にて	二六
煙筒掃除	二八
牛馬 綿羊	三〇
秋景一幅	三三
驛頭の景	三三
苦小牧市	三四
あいのもしり	三七
あいのもしりへ繪四點▽	二九—三三
えぞがしま	三三
我が師父	三五
詩情	三八
主よ	四〇

人間の女………	四
女子………	四
女………	四
エデンの園について………	五
我は………	五
我は………	五
我が希求………	五
糧………	五
糧………	五
衣食住………	六
野菜畑………	六
はらいそ………	六
アダムとイブ………	六
二人連れ………	七
南蠻流………	七
南蠻諸國………	七
春景一幅………	八

鉛製玩具のうた	八
青髯八輪六點▽	八
崎陽丸山大壽樓	九
穴蟬	九
昆蟲	九
孔雀	九
白孔雀	九
祖母を想ふ	九
秋色	九
予は	一〇
世界の涯	一〇
或る夕	一〇

我は

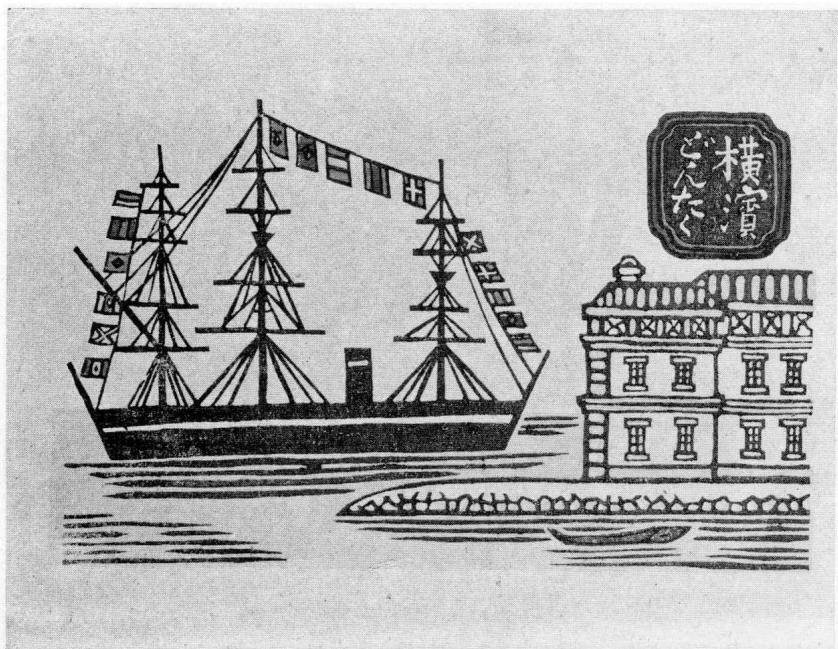
我はかつて詩人たりしか

ひそやかに今も尙我は詩人なりと思へるなり

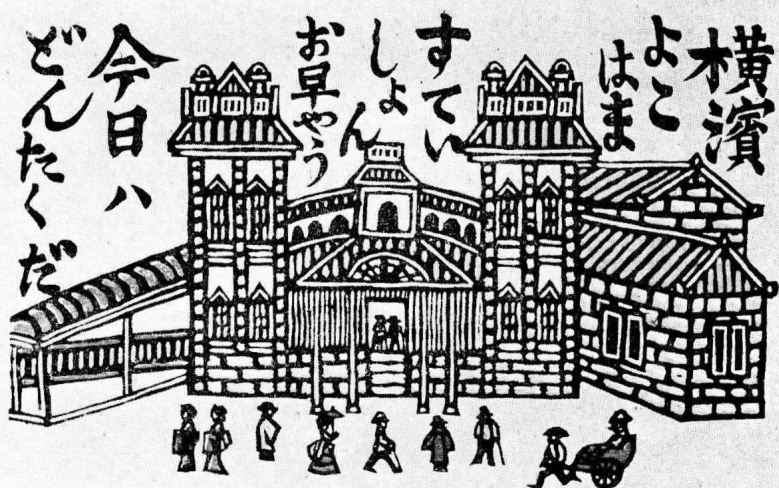
詩人は常に文字以て詩を書かざるべからざるか

我は今詩情を繪畫に托す

あな哀れ 我が詩情は詩とならずして繪畫となるなり



版画帖 「横濱どんたく」より8点 1922年作



馬の横乗り

異人

の女

今

日

どんたく

遠乗りだ



はまの盛り場

さかり場に



異人の船のり
どんたくだ

異人の男ハ

女づれ

今日ハ

どんたく

のんきだね



日がさ

片手に

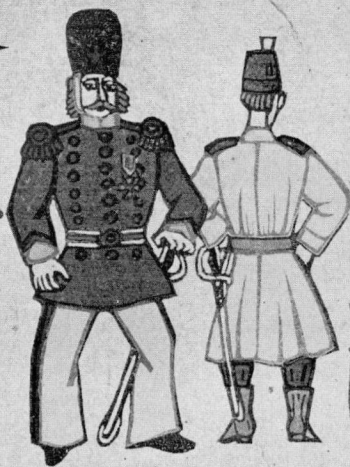
しやなくと



今日ハどんたく

濱むすめ

腰にさあべる
異人の兵隊



今日ハどんたく
のつそりと

横濱横濱

異

人館

食

ひっそり

かん

と

どんたくだ



寂寥地方

ここなれや寂寥地方

我が舌と唇は凍て

眼に見知る人とはなく

四月六日降る雪を見る

ここなれや寂寥地方

寂寥とは友有らざること

寂寥とは馴染まざること

寂寥とは暖爐燃ゆる室に居て

ひねもす無爲に過す時

微塵の如く降りかかる 目に見えぬもの

寂寥とは市井に住みて感ずるもの

見知らぬ人と伍する時 身に覺ゆるもの

寂寥とは軒に干されし開きたる鰯を見ること